

| | | | |
|--------------|--|----|---------|
| 分科会名 | 研究主題「学校と地域がともに子どもの学びを創り出すための教頭の役割」 | | |
| 第1分科会 | | | |
| 提言者 | 武雄市立北方小学校 | 氏名 | 福田 康弘 |
| 協議の柱 | <p>①地域と学校とをつなぐコーディネートの在り方</p> <p>②教頭、教務主任、担任との連携、役割分担</p> | | |
| 協議内容 | <p>【質疑応答】</p> <p>Q:学校支援コーディネーターの役割を教えてください。</p> <p>A:公民館長・PTA会長OBの方々、婦人会会長 など</p> <p>Q:学校から地域への貢献について具体的に知りたい。</p> <p>A:町の行事に参加。クラブ活動の発表の場として町の文化祭に出品。</p> <p>Q:教務の役割は？</p> <p>A:時間割の相談や調整</p> <p>：教頭の仕事も一部負担してもらったこともあるが、課題。</p> <p>Q:コミュニティスクールができてから、学校は変わったか。</p> <p>A:小中で学校運営協議会を開催したことで人数が増え、色々な意見や要望などが聞けるようになった。例えば、「特別に支援が必要な児童に対する話をしてもらいたい。」</p> <p>【グループの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中の違いを感じた。中学校では地域人材の活用がなく、地域人材一覧表は作成していない。キャリア教育（職場体験）では、学年主任が動く。 ・ 地域人材一覧表の作成は、働き方改革の一助となる。人材バンクを共有しながらできるのでよい。活動のふり返りを一覧の中にメモしておけば次年度につながる。 ・ 一覧表を地域にも共有しているのは素晴らしい。項目の中に教育課程も含んでいるのでより良いものになっている。学校の負担軽減にもなっている。しかし、活動ありきではなく、年度ごとに見直しが必要。 ・ 整理をされた一覧表である。活動に知的な好奇心を持たせるように、担任の意識や単元の工夫など教頭がコーディネートしながらねらいを持った活動になるようにする。 ・ 学校支援コーディネーターとしては地域に人材がいることがいいこと。窓口を校長や教頭、教育課程に関することは教務に分担し、調整しながら進めたり、地域の会合に2人で出席したりする。 | | |
| 指導助言者 | 嬉野市立塩田小学校 校長 | 氏名 | 橋本 幸雄 様 |
| 指導助言者からの助言内容 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 武雄市内の小中で取り組むことが素晴らしい。いつでも、どこでも、誰でも使えることはできそうでできない取り組みである。「見える化」が大切である。 ○ 一覧表の内容を増やすことや減らすこともできるが、今後どう削るかが大切になる。 ○ 学年主任、担任への情報や教務主任のコーディネーターとしての教頭の役割がある。 ○ 子どもたちが地域へ出向いていく活動（出前発表）は、学級で取り組んでいる音読や音楽などを発表する。今年度は、地域でラジオ体操に取り組むことにした。アイデアを出すことで地域も盛り上がる。 ○ 地域行事に参加をするように心がけている。フットワークを軽く地域とつながるようにする。 | | |

| | | | |
|--------------|---|----|--------|
| 分科会名 | 研究主題「地域が育つ学校づくりを目指して」 | | |
| 第1分科会 | ～学校と地域の連携・協働性を高めるための教頭の役割～ | | |
| 提言者 | 鹿島市立七浦小学校 | 氏名 | 池田直人 |
| 協議の柱 | <p>① 学校と地域の連携・協働性を高めるため際の留意点は何か。</p> <p>② 単線的思考と複線的思考の両方を視野に入れておくことは、学校と地域の連携・協働性を高める際に、有効か。</p> | | |
| 協議内容 | <p>【質疑応答】</p> <p>Q:職員の姿やPTAの関わりについて</p> <p>A:合同運動会については、職員会議での提案、保護者アンケートの実施（84%賛成）、地区の運動会準備委員会へ体育主任が参加 ⇒ 来年度から実施</p> <p>梅林整備は、区長とPTA環境部と協力してもらえる保護者で実施</p> <p>【グループの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の良さがなせる業。学校から情報を発信したり、学校はこんなに頑張っていることをアピールしたりして、地域を巻き込む。 ・ 道路側の木の伐採など、行政でしかできないことは、つなぎ役として教頭が担う。 ・ 教頭の地域からの信頼度、教頭の調整力が必要。単線型と複線型で行ったことで、地域の協力が得られやすい。 ・ 学校、保護者、地域の協力だけでなく、行政との関わりも必要なので、選択して進めていくことが大切。 ・ 地域の協力を学校側から返すこと、感謝を返すことによって、更に地域とつながる。（司会）地域性の課題、他の課題や取組みについて、紹介いただけないか。課題解決に向けて実際に取組んだ事例などあれば。 ・ 地域の人とつながっていくために、会合に参加をしたり、情報をたくさん仕入れたりする。仕入れた情報は、次の人に残していく。 ・ 本校の取組みだが、子どもたちと一緒に「ビオトープ」を整備する中で、学校予算でできなかったのが、PTA会長の声かけで、寄付を集めた。たくさんの協力が得られ、完全に整備ができた。その後、寄付からの運営基金で、整備を続けたり、年に1回活動したメンバーが集まったりしている。続けることで地域と学校の思いが広がっていった。 | | |
| 指導助言者 | 嬉野市立塩田小学校 校長 | 氏名 | 橋本幸雄 様 |
| 指導助言者からの助言内容 | <ul style="list-style-type: none"> ○ たくさんの意見（リクエスト）を地域からもらおうと、返していかななくてはいけない。立場のある人が対応をすると、うまくおさまる。 ○ 外部や内部（職員）からのリクエストは、職員とのコミュニケーションを取るのは教頭の役目。 ○ いろいろなことがあると思うが、教頭は、口角を上げて笑顔を作ること。笑顔になれば、気持ちの切り替えもできる。 ○ 共同作業の複線型は、地域性をいかに活かしていくか。詳しく言うと、七浦の地域性を活かしていくことが大切。 ○ 校長への進言の仕方、連絡・報告・相談をどうつなげていくかが大切。 | | |